

淀川らしい水と緑と人とのネットワークを継承する  
淀川の魅力を守り、育て、使いこなす



# 淀川

淀川河川公園整備・管理運営プログラム

今後取り組んでいく令和7年度までの整備及び管理運営方針



令和3年6月



国土交通省近畿地方整備局

# 1. はじめに

## 大阪と京都を結ぶ水と緑の安らぎの空間淀川河川公園

淀川河川公園は、大阪湾の淀川河口部（大阪府）から桂川、宇治川、木津川が合流する三川合流域（京都府）までの延長約37kmの両岸の河川敷に位置する国営公園です。

本公園は、昭和39年の東京オリンピック開催を契機としたスポーツ振興が図られる中、都市の過密化によるオープンスペースの不足も相まって、昭和46年の淀川水系工事实施基本計画の改定に伴って生み出される高水敷を、近畿圏の人々に豊かな自然的環境と多様なレクリエーション空間を提供することを目的に整備を開始しました。



### 淀川河川公園の主な沿革

昭和42年2月	都市計画緑地決定(大阪府告示 淀川河川公園)
昭和47年	淀川河川公園事業着手
昭和48年7月	部分供用開始(太間地区、八雲地区、外島地区)
昭和50年7月	淀川河川公園基本計画策定
昭和51年5月	国営公園制度の創設
昭和52年3月	太間地区・大塚地区・太子橋地区供用
昭和53年7月	西中島地区供用
昭和54年5月	淀川河川公園基本計画の改定
平成 1年4月	背割堤地区供用
平成 9年7月	枚方地区供用
平成20年8月	淀川河川公園基本計画の改定
平成29年3月	背割堤地区さくらであい館供用

# 2. ゾーニングと主な施設

## 淀川河川公園基本計画では、「自然環境保全・再生ゾーン」、「水辺環境保全・再生ゾーン」、「多目的利用ゾーン」の3つのゾーンを設定しています

淀川河川公園基本計画では、淀川特有の自然環境を有する場所などの保全・再生や、水陸移行帯の縦断方向への連続性の確保を図るとともに、淀川の自然の中で水に親しみ、憩う場をつくるため、「自然環境保全・再生ゾーン」「水辺環境保全・再生ゾーン」「多目的利用ゾーン」を、設定しています。

### 自然環境保全・再生ゾーン 計画面積273ha(22%)

- ・干潟や砂州、ヨシ原、ワンドなどの淀川特有の自然環境を有する地区等
- ・河川敷の切り下げ、干潟やワンドなどの保全・再生など、地区の特性を踏まえながら**生物の生息・生育の場の保全・再生を図るゾーン**
- ・自然環境の保全・再生を優先し、人の立ち入りを抑制するなど利用調整を実施

### 水辺環境保全・再生ゾーン 計画面積569ha(47%)

- ・水陸移行帯等の自然環境の保全・再生を図るための河川敷の切り下げなど、水際に沿って河川形状の修復に取り組む地区等
- ・その上で、自然環境の特性を損なわないよう留意しつつ、**散策や観察などを通じて自然と触れあえるゾーン**

### 多目的利用ゾーン 計画面積374ha(31%)

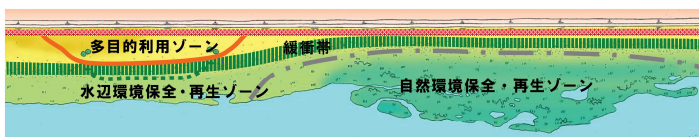
- ・水辺での水遊びや自然観察、原っぱでの遊びや運動、休憩、散歩など様々な形で淀川の自然環境の中で水に親しみ、憩う場
- ・世代を問わず**多様な利用者が、安全かつ快適に楽しむゾーン**

各地区のゾーニングに際しては、淀川の自然環境が縦断及び横断方向に連続することや利用ニーズを踏まえて設定しています。

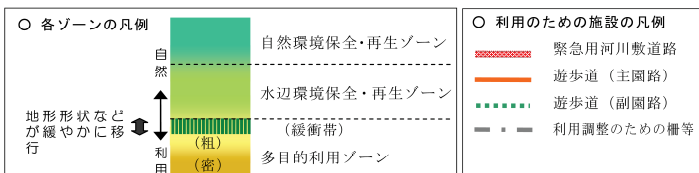
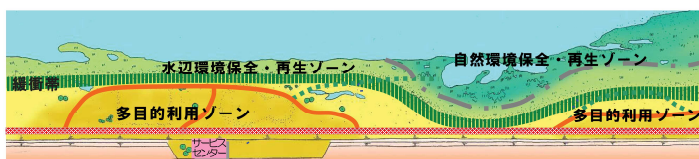
### 【模式図】

#### ■ ゾーニング模式平面図

【生物の生息・生育の場としてとくに重要な地区の例】

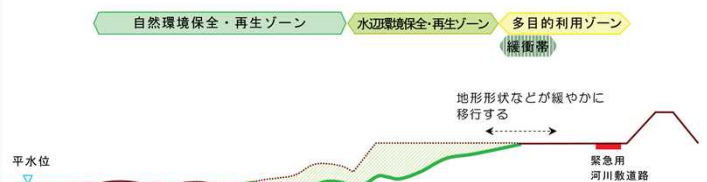


【利用ニーズが大きい地区の例】

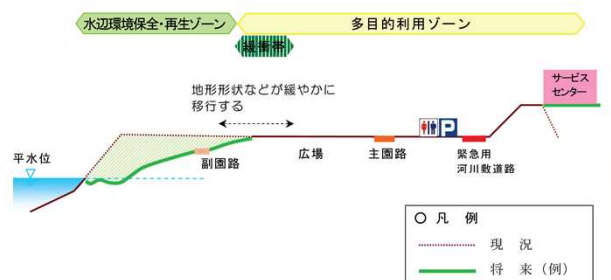


#### ■ ゾーニング模式断面図

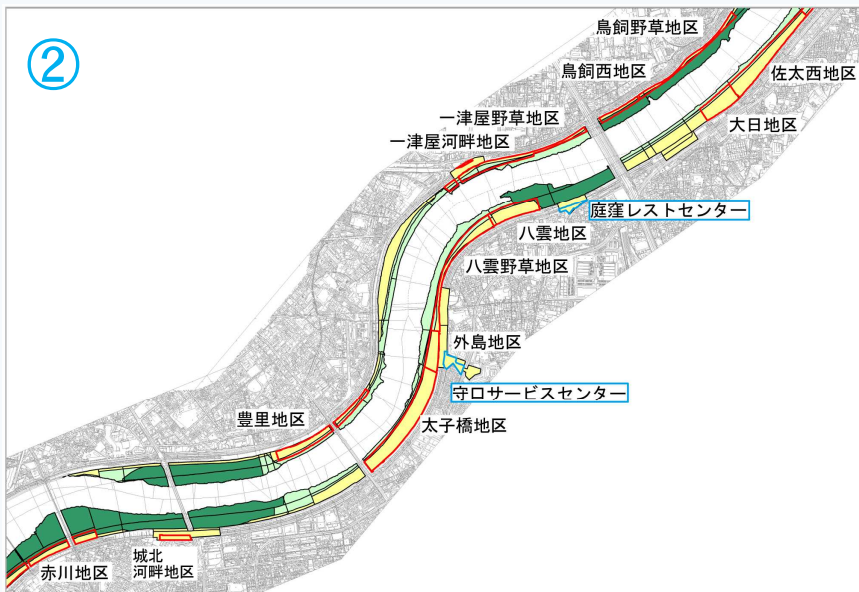
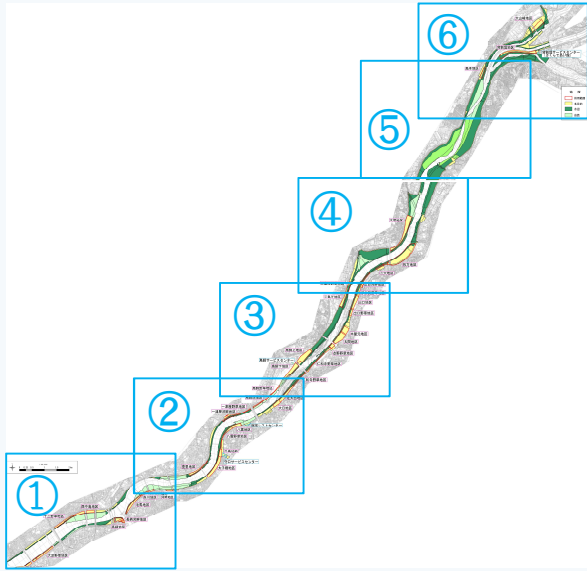
【生物の生息・生育の場としてとくに重要な地区の例】



【利用ニーズが大きい地区の例】



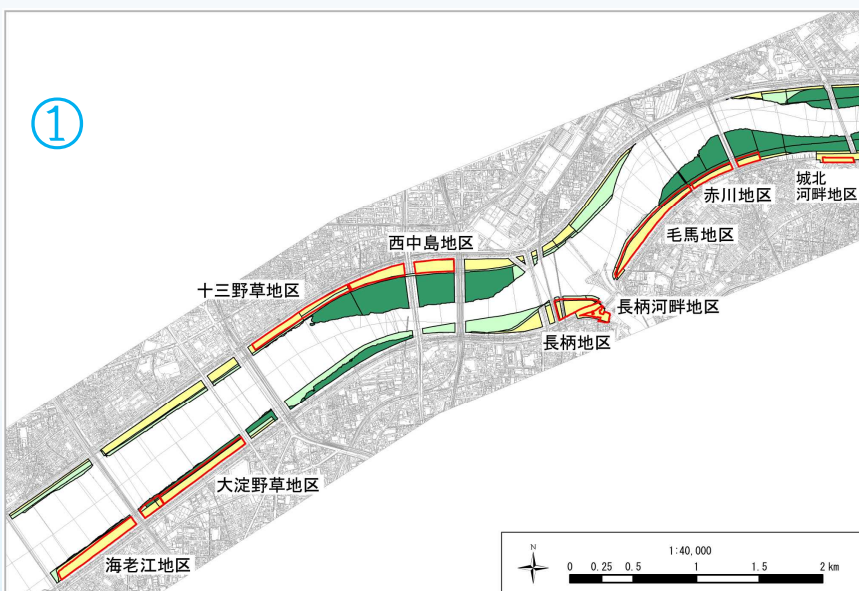
# ○淀川河川公園ゾーニング



庭窪レストセンター



鳥飼サービスセンター

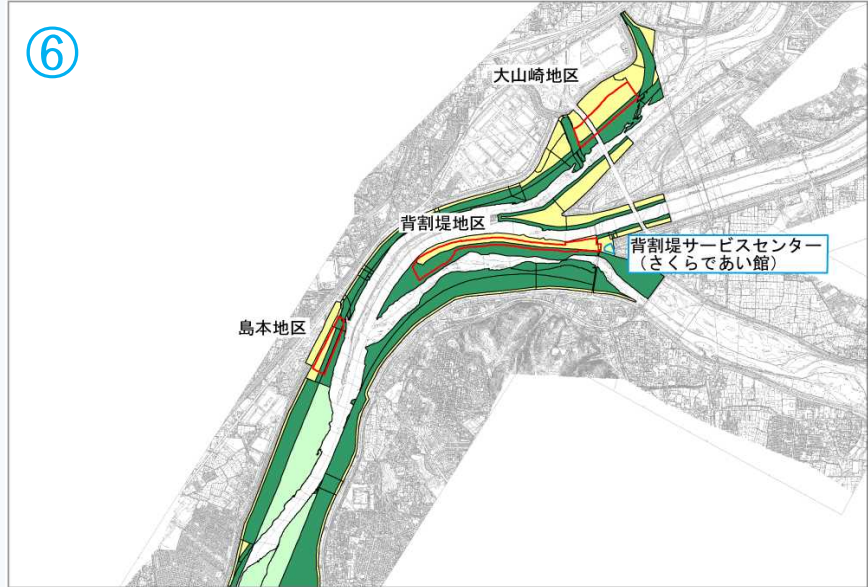


凡例

	自然環境保全・再生ゾーン		開園地区
	水辺環境保全・再生ゾーン		サービスセンター等
	多目的利用ゾーン		



背割堤サービスセンター(さくらであい館)



凡例

	自然環境保全・再生ゾーン		開園地区
	水辺環境保全・再生ゾーン		サービスセンター等
	多目的利用ゾーン		

## ○淀川河川公園の主な施設

健康づくりや体力向上のために利用できるグラウンドや野鳥観察、自然体験プログラムなどが楽しめる広場があります。

### 枚方地区

・平成9年に開園した枚方地区は、京阪枚方公園駅から徒歩5分、広大な多目的広場をはじめ、野球場・サッカー場兼用施設や水辺でコンサート等を行う施設(枚方アクアシアター)などの施設があり、年間35万人の方々にご利用されています。

・「淀川資料館」や「枚方宿」が隣接し、淀川の自然や歴史・文化を学べる環境が整っています。



枚方地区の全景

### 西中島地区

・淀川の下流に位置する西中島地区は、昭和53年に開園され、大阪の都心にあり最寄り駅から近いため、休日にはバーベキュー利用者で賑わっており、年間29万人の方々に利用されています。



西中島地区のバーベキュー

### 背割堤地区

・木津川、宇治川、桂川の三川が会う「背割堤地区」は平成元年に開園され、桜の開花時期には12万人の方々が訪れる近畿でも有数の桜の名所になっています。

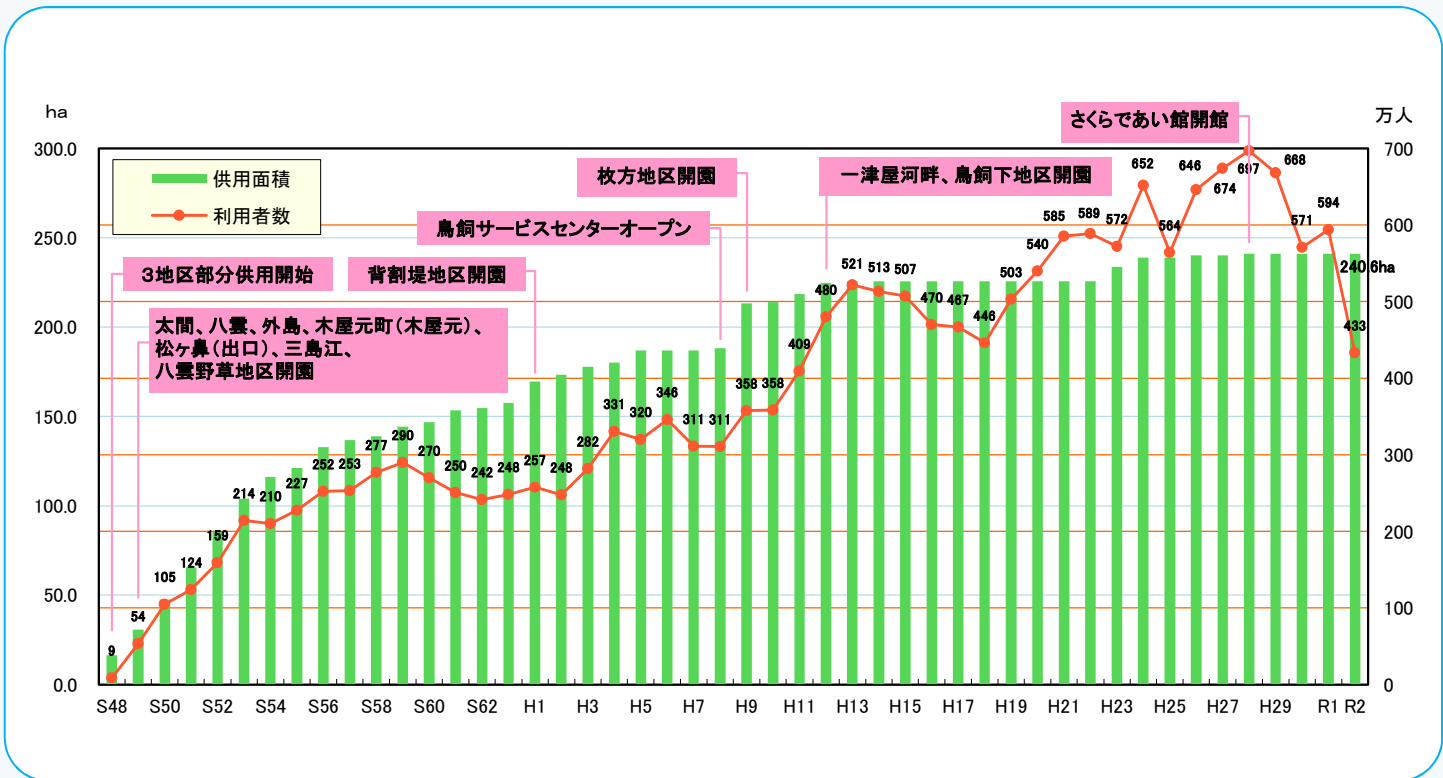
・地域間交流や地域振興、観光周遊の拠点として、平成29年に「さくらであい館」が開館しました。開館以来多くのサイクリストの休憩場所、地域間交流の場として利用されています。また展望塔も併設されており、季節折々の風景が楽しめます。



さくらまつりで賑わう背割堤地区(平成30年4月)

# 3. 淀川河川公園の利用状況

- 淀川河川公園の近年の入園者数は約600万人/年程度、供用開始からの累計は約1億8千万人以上(令和2年度末)となっています。
- 淀川が有する豊かな自然環境の保全・再生に関する活動や、自然体験プログラム、市民の健康増進のためのスポーツレクリエーションなど、淀川周辺都市の約1,260万人を中心に水と緑のオープンスペースを提供しています。自然体験プログラムとして、ボート乗船体験や動植物の観察会、自然を感じながらのヨガを楽しむイベントなど年間約50回のイベントを実施し、年間約2,000人の方のご参加を頂いています。また、スポーツレクリエーションとして、ふれあいマラソンやこどもスポーツスクールなどを開催し、年間約2,000人のご参加を頂いています。



# 4. 淀川河川公園のストック効果

## 人々のライフスタイルに対応した多様なレクリエーション活動を支えます

- 淀川では自然とのふれあいや散策やウォーキング、マラソン、バーベキューなど家族でのレクリエーション、余暇活動の場として利用されることで、子供から高齢者まで幅広い世代の健康増進などに寄与しています。



ひらかた淀川ファミリーフェスタ スポーツスクール

## 活力ある地域のコミュニティ活動を支えるため公園の空間提供、さらに地域活動の拠点として機能しています

- 地域のまちづくり等に関わる市民や団体、自治体や学校などと協働し、「淀川まるごと体験会」などのイベントを通じて公園の一層の利活用を図ることにより、地域コミュニティを創出する場となっています。



市民や学校などと協働で開催した「淀川まるごと体験会」

## 地域防災計画に位置づけられている広域避難地等として機能しています

- 淀川周辺都市の地域防災計画に「広域避難地」「災害時用臨時ヘリポート」などに位置づけされており、災害発生時など淀川周辺都市との連携を図ります。
- 平成30年7月に発生した大阪北部地震の際は、市内ガス管の復旧工事を行うため全国から集まった施工車両の基地として使用するため「大塚地区」の臨時駐車場を開放しました。



全国から集結した事業者の多数の作業車両



駐車場(大塚地区)から復旧現場へ向かう車列



# 5. 整備・管理運営の方針(重点事項)

## 地域協議会における管理運営等の協議


- 淀川河川公園基本計画に基づき、上流域、中流左岸域、中流右岸域、下流域の4つのブロック毎に設置された地域協議会において、各地区の整備計画や、各地区の管理運営等について議論しています。
- 地域協議会での議論を踏まえて下記の整備計画を定めています。

### 地域協議会

4ブロックに分割して設置

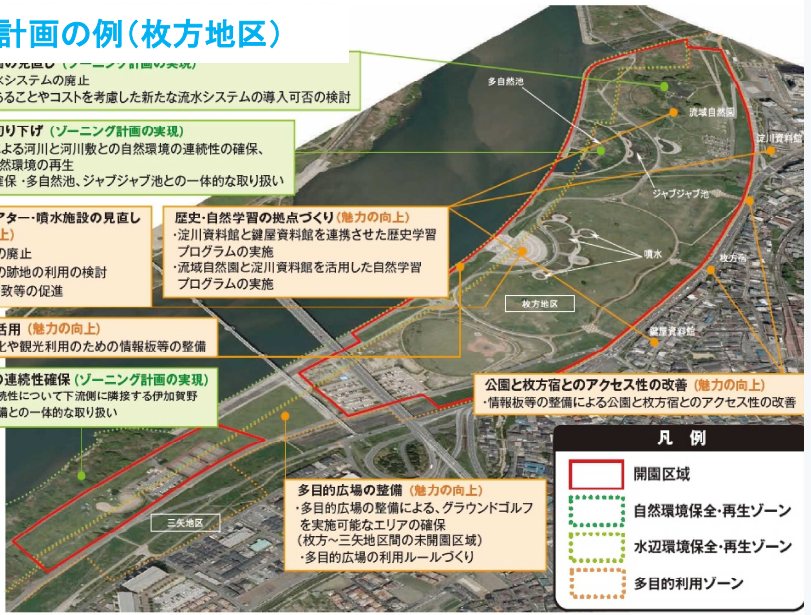
<b>中流右岸地域協議会</b> (対象地域) 高槻市・摂津市域 (平成 22 年設置)	<b>上流域地域協議会</b> (対象地域) 八幡市・大山崎町・島本町域 (平成 22 年設置)
<b>下流域地域協議会</b> (対象地域) 守口市(庭窪河群・八雲・八雲野草・守口・外島地区)、大阪市域の河川公園 (平成 23 年設置)	<b>中流左岸地域協議会</b> (対象地域) 枚方市・寝屋川市・守口市域 (平成 23 年設置)

平成22年度から各地域協議会において13地区の計画を作成し、利活用しやすい公園整備を行っています。



地域協議会開催状況

### 整備計画の例(枚方地区)

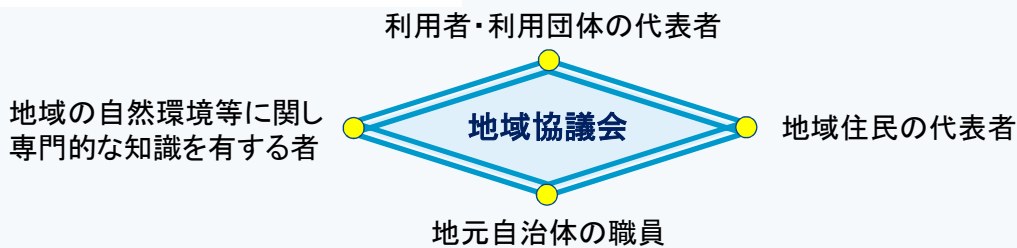


- 流域自然環境の再生(ゾーニング計画の実現)**
  - ・現有の流水システムの廃止
  - ・高水敷であることやコストを考慮した新たな流水システムの導入可否の検討
- 高水敷の切り下げ(ゾーニング計画の実現)**
  - ・切り下げによる河川と河川敷との自然環境の連続性の確保、川らしい自然環境の再生
  - ・観水性の確保・多自然池、ジャブジャブ池との一体的な取り扱い
- アクアシアター・噴水施設の見直し(魅力の向上)**
  - ・噴水施設の廃止
  - ・噴水施設の跡地の利用の検討
  - ・イベント誘致等の促進
- 歴史・自然学習の拠点づくり(魅力の向上)**
  - ・淀川資料館と健屋資料館を連携させた歴史学習プログラムの実施
  - ・流域自然園と淀川資料館を活用した自然学習プログラムの実施
- 船着場の活用(魅力の向上)**
  - ・舟運活性化や観光利用のための情報板等の整備
- 自然環境の連続性確保(ゾーニング計画の実現)**
  - ・水辺との連続性について下流側に隣接する伊加賀野草地区の整備との一体的な取り扱い
- 公園と枚方宿とのアクセス性の改善(魅力の向上)**
  - ・情報板等の整備による公園と枚方宿とのアクセス性の改善
- 多目的広場の整備(魅力の向上)**
  - ・多目的広場の整備による、グラウンドゴルフを実施可能なエリアの確保(枚方～三矢地区間の未開園区域)
  - ・多目的広場の利用ルールづくり

※おおよそ5年程度を目途として、整備 再整備の実施が見込まれる内容について記載しています。  
 ※地域協議会での議論 治水環境の観点からの技術的検討、予算状況等により変更となる場合があります。

※切り下げ区域は、技術的検討をふまえて位置及び規模を設定します。

### 地域協議会の構成



## 人々のライフスタイルに対応した多様なレクリエーション活動を支えます

- 本公園では、多種多様なライフスタイルに対応し、水辺の風景を楽しみながら行う日々の散歩の他、野球やマラソン、バーベキューなどの様々な活動ができます。
- これらの多様なニーズに引き続き対応するとともに、「新しい日常」にも対応したレクリエーション活動の場やプログラムの提供を行います。また、バリアフリー施設をはじめとする諸施設の点検を適切に行い、老朽化した施設を適切に補修するなど、安心して利用頂けるよう、その活動を支えます。

## 活力ある地域社会の取り組みと連携した公園ネットワークを継承します

- 地域のまちづくり等に関わる市民や団体、学校等と協働し、地域社会とともに、公園の一層の利活用を図ります。

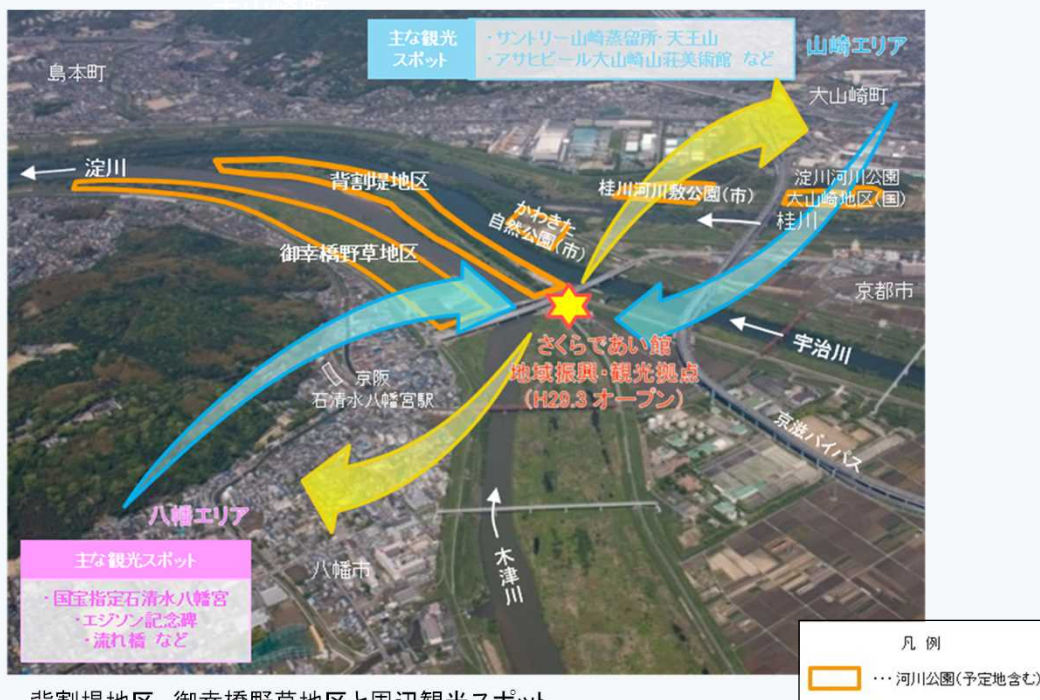
# 6. 整備の方針

水と緑のストック効果をさらに発揮させるため、「新しい日常」に対応しながら公園機能の向上を図ります。

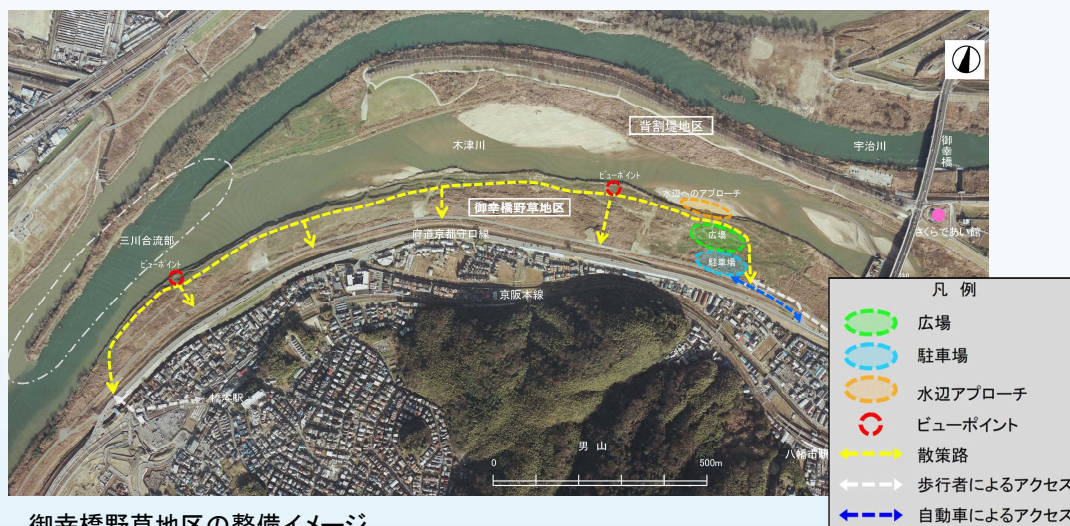
また、これまでになかった観光振興効果や経済活性化効果を発揮させるため、既存ストックの活用を市民や民間事業者、地域の様々な活動団体と河川・公園との協働で取り組み、より安全で安心して過ごせる空間の創出を推進して行きます。

## 淀川三川地域づくり事業

- 背割堤地区の「さくらであい館」(平成29年3月供用)では、「出会い」をテーマとした様々なプログラムを地元商工会や農協、観光団体等と協働で実施しています。日本有数の桜のお花見のスポットである背割堤地区を舞台にした地域を元気にする公園づくりを引き続き進めます。  
また、さくらであい館を起点にした八幡市のまちなか散策へとつながる園内の園路整備や、公園各地区と周辺の観光スポットを結ぶ周遊促進のため、各自治体と協働しサイン整備などの検討を進めます。
- 木津川を挟んで背割堤の対岸にある御幸橋野草地区(木津川左岸)では、木津川に面した周遊ルートや観光スポットとして利用可能なビューポイント、自然観察などで利用する広場などの整備を進めます。



背割堤地区、御幸橋野草地区と周辺観光スポット



御幸橋野草地区の整備イメージ

## 守口サービスセンター再整備事業等を始めとした各地区の再整備

- 大阪府守口市に位置する守口地区・外島地区では、利用者がゆったりと憩えるサービス提供機能や淀川河川公園にて行われる様々なイベント等の利用案内機能等を有する守口サービスセンターの再整備を推進します。
- 枚方地区、大塚地区等各地区の整備計画に基づき施設のバリアフリー化などの再整備を進めます。



守口地区周辺イメージパース

## 太陽光発電など再生可能エネルギーを活用

- 地球温暖化防止対策として、太陽光発電などの再生可能エネルギーの活用により、環境負荷の低減を進めます。

# 7. 管理運営の方針

引き続き、大都市近傍の貴重な水と緑のオープンスペースを次世代へ継承するとともに、「新しい日常」においても、多様なレクリエーション活動や地域コミュニティ活動の場としての役割を果たすとともに、防災面でも地域に貢献できるよう、淀川の有する歴史文化や立地を活かしたプログラム提供や、公園の快適性・安全性を高める公園管理を進めていきます。

## 歴史文化・水辺の体験プログラムの提供

- 淀川を知る事は、関西の水の歴史を知る事であり、沿川の各所には淀川の昔を物語る歴史資源が今もなお数多く残っています。
- 春や秋の行楽シーズンには舟運事業と連携した散策ツアーや、気軽に楽しめるカヌー・ボート体験を通して淀川の歴史文化と水辺の学習プログラムを提供します。
- さらに、淀川をフィールドに活躍する様々な地域の活動団体とのネットワークを広げ、淀川だからこそ体感できる水と緑にふれあえる機会を創出します。



水辺の体験学習



サップ体験

サップとは

スタンドアップパドルサーフィンとも言われ、サーフボードより大きめのボードに立ち、パドルで漕いで海や川と場所を選ばず遊べるウォータースポーツ。



歴史散策ツアー

## 国営公園ならではの健康づくりプログラムの提供

- 多様な方々が一緒にマラソンやレクリエーションを楽しめる「ふれあいマラソン」や、「スロージョギング」、「ノルディックウォーク」など、健康づくりにつながる公園プログラムを提供します。
- 健康づくりと体力向上のためプロスポーツ選手やスポーツの専門学生から指導を受けられる「こどもスポーツスクール」などを実施します。



ふれあいマラソン



スロージョギング

## 淀川を満喫する緑の空間演出とその利活用

- 河川に咲く野の花や植栽花木を活かした風景づくりに加え、背割堤の桜並木については、平成30年度の台風21号による被害からの復旧や、健全育成を進めることで、季節を彩る草花で公園の四季を演出し、来園者の目を楽しませる緑の空間を作ります。
- この緑の空間を使って、マルシェや野草観察会等の自然体験プログラムなど、地域の様々な活動主体とともに活用していきます。
- 河川の自然生態系に配慮する草刈りを行う観点から、引き続き年間の刈込回数をエリアごとに増減させる回数調整を行います。



背割堤の桜並木



花修景

## 快適性と安全性を目指した公園管理

- 公園の快適性や安全性を高めるため、日常的に公園施設の点検を実施し、老朽化対策を含めた補修繕を行います。
- 消火訓練・テロ対策訓練などの各種訓練を行っています。



施設点検



地元消防署指導のもと実施している消火訓練

# 8. 事業効果

淀川河川公園は、供用開始から累計約1億8千万人以上の方々に活用いただいています。今後とも、公園利用者や民間事業者、地域の様々な活動団体とともに淀川河川公園という貴重なストックを育て使いこなし、訪れる方々の笑顔がはじける公園づくりのチャレンジを展開していきます。

## 淀川が育む貴重な歴史文化の体感・自然環境の保全

- 淀川の歴史文化をテーマとした舟運やウォーキングプログラム、地域参画による水辺プログラム、自然観察会等を通し、淀川がこれまで育んできた人と川との関わりを体感し、身近にある淀川に貴重な水と緑の資源の宝庫が存在する価値を知っていただくことができます。



水辺プログラム(サップ体験)



自然観察会

## 地域活性化とコミュニティ形成の場

- 大型イベントや健康づくりプログラムなどを通じて引き続き地域との連携を進めることで、引き続き地域活性化に寄与していきます。
- さくらであい館を農協や商工会が活用しマルシェ等を開催することで、地元物産と連動させた地域活性化が進むとともに、周辺地域の歴史・観光の情報発信機能が発揮され、国営公園から地域へと周遊をつなげ、新たな出会いの場となるコミュニティ形成が図られます。



マルシェ(農産物の販売)

## 安全・安心を支える管理・防災機能の発揮

- 安心して公園を利用いただくための利用調整や安全確保、適正な施設管理の司令塔となるサービスセンターの再整備を行うことで、多くの来園者と地域のコミュニティの安全安心を支えます。また、大災害に備え、地元自治体と連携した水防訓練の場として、安全・安心の拠点として活用します。
- 本整備プログラム期間中に、淀川河川公園のポテンシャルをフル活用した公園サービスのさらなる向上を目指します。



守口サービスセンターにおける  
利用調整の状況

本プログラムは、今後の社会情勢を踏まえ、必要に応じ見直していきます。

